

テーマ：『 自然と共に生き、よりよい環境を作り出す子の育成 』

横浜市立 都田西小学校

Tel. 045-933-7652

担 当 依田 一代
者：



■実践内容：

（全校児童）

- ・ごみの分別（燃えるゴミ・プラスチック・新聞紙・金属など）活動
- ・各クラスにリサイクル箱を作り、画用紙などを再利用する活動
- ・校内のビオトープ、ミニビオトープを利用した水辺の生き物の飼育・観察
- ・江川せせらぎ水辺愛護会・都筑水再生センター等との連携による蛍の幼虫の飼育と放虫
- ・ホテルの餌になるカワニナを幼貝から飼育
- ・校内に設置した風力・ソーラー発電を利用した魚の飼育
- ・学区美化活動「クリーン大作戦」の企画と実施
- ・子どもエコ活動（節電・節水等）などの児童会活動の推進
- ・給食の牛乳パックの回収活動
- ・ペットボトルのキャップ回収
- ・環境をテーマにした催し物・コンクールへの積極的な呼びかけと参加
- ・環境をテーマにしたポスターの掲示
- ・環境に関係のある写真や資料などを展示
- ・栽培委員会が、年間を通して花壇の整備や黒土の手入れなどの活動

（低学年児童）

- ・身近な動植物（飼育小屋の動物、昆虫、草花、木の実）とふれあい、生命を大切にする心を育む
- ・五感をおおいに生かして自然と触れ合うすばらしさを学ぶ

（中学年児童）

- ・飼育や観察を通して昆虫、植物のつくりを知り自然のすばらしさ・大切さを学ぶ
- ・ゴミを減らすことを目的とした学習を進め、資源の大切さを学ぶ
- ・理科学習の「生き物をしらべよう」の発展から鳥や樹木などに興味をもつ気持ちを育む
- ・ゴーヤのグリーンカーテンを作り環境にやさしい取り組みを学ぶ

（高学年児童）

- ・自分たちの生活の様子に目を向け、環境の問題や課題に気づかせる
- ・環境問題について 理科学習や総合的な学習の時間に取り上げて学習し、下級生や地域の人々に伝えようとする力を育てる
- ・自然資源を守る取り組みについて知り、実践する力を育てる
(保護者)
- ・環境ボランティアによる花壇の整備、鉢栽培 (通年)
- ・1, 2 年生のサクラソウの植えの手伝い

■実践成果:

各教科に環境教育の視点を盛り込み、子ども達自身が気づき、理科や生活科や総合的な学習などの学習の中で少しずつ生かせるようになってきました。授業中、植物の名前がわからないときや図画工作などで鳥などの絵を描く時、2 階の環境コーナーに行って図鑑を調べたり、本を見たりすることが多くなりました。また、学習や掃除などでお出のごみに対してもいろいろな分別が低学年からでき、ものを大切に使うという気持ちやリサイクルの意識が身についてきました。

6 年生は卒業制作としてごみの分別パネルを作り、低学年の教室やホールに展示しました。低学年はそれを見て分別しながらごみを捨てています。

4 年生は、区の緑のグリーンカーテン事業に参加し、6月からヘチマの栽培をベランダ側に始めました。以前に本校の技術員には、しっかりと固定したネットを作ってもらい、今後もずっと続けていける環境が整いました。区からは、雨水をためておける雨水タンクを設置していただき、水やりにはとても重宝しました。グリーンカーテンの成果としては生育が目当たりに観察できて、とても身近な物と感じられました。但し、窓の外を覆うほどには、ヘチマが育ちませんでした。土の量、水やりの回数などを工夫していく必要を感じました。来年は、今年の実験を元にグリーンカーテンで窓の外を覆うことができると期待します。

環境委員会では、ミニビオトープに水生植物がいっぱい育ったのでビオトープに移植しました。今まであまりビオトープに水生植物が少なかったのが、すっかり根付きました。また水生植物を集会などで全校の児童に紹介しています。このように自然との触れ合いを深めよりよい環境づくりへの意識が高まりつつあります。

■実践ポイント:

自ら楽しさや喜びを発見し、友達の良さに気づき一緒に考えながら活動しています。

施設・設備を効果的に生かし、子ども達に自然と共生していくことの大切さ、環境を大切にすることを意識させるようにしています。